

「気象業務の評価に関する懇談会」(第8回) 議事概要

1. 日 時 : 平成 16 年 3 月 19 日 (金) 10:00 ~ 12:00

2. 場 所 : 気象庁大会議室 (5 階)

3. 出席者

【 委 員 】

| | |
|----------------------|---------------------|
| 座長) 廣 井 脩 (ひろい おさむ) | 東京大学社会情報研究所教授 |
| 石 田 東 生 (いしだ はるお) | 筑波大学第三学群社会工学系教授 |
| 小 林 昂 (こばやし たかし) | 株式会社ビーエス日本代表取締役社長 |
| 小 室 広佐子 (こむろ ひさこ) | 東京国際大学国際関係学部助教授 |
| 平 啓 介 (たいら けいすけ) | 日本学術振興会監事 |
| 田 淵 雪 子 (たぶち ゆきこ) | 株式会社三菱総合研究所主席研究員 |
| 森 下 俊 三 (もりした しゅんぞう) | 東日本電信電話株式会社代表取締役副社長 |

【 気象庁 】

長官、次長、総務部長、予報部長、観測部長、地震火山部長、
気候・海洋気象部長 ほか

4. 議事概要

(1) 平成 1 5 年度気象業務の業績測定・実績評価 (チェックアップ) の暫定結果 (案)
平成 1 5 年度の業績指標、業務目標の暫定的な結果と評価案を説明。

(委 員)

- ・ 「目標に向けて進展なし」や「あまり進展なし」が出てきたことは、たいへん意義がある。それだけ高い目標値を設定していたことを意味する。
- ・ 目標値を設定した当初と違い、データが揃ってきた今、目標値を見直すことも考えられる。

(気象庁)

- ・ 目標値を見直す際は外部の専門家の意見を伺うように、と指導いただいております。推計震度については見直しを考えているが、これ以外に変更しない予定。

(委 員)

- ・ 推計震度は 1 6 年度の目標から変えるのか。

(気象庁)

- ・ 1 6 年度目標はこのまま。1 7 年度以降の目標について来年度中に見直したい。

(委 員)

- ・ 火山活動の監視能力は「進展なし」だが、理由を書いていない。
- ・ 一番の問題は、天気予報の精度の項目。取り組みの強化で設定目標は達成可能か。

(気象庁)

- ・ 手法の改善・導入は試みており、光明は見出しつつある。効果が時間とともに比例的にでる性格のものではないので、蓄積された成果がもう少しで現れるとご理解いただきたい。

(委員)

- ・ 途中経過で目標値を下げるのは如何なものか。目標年次になってきちんと総括することが大事。
- ・ 「取り組みを強化すべき」と評価している項目があるが、もう少し内容を具体的に。
- ・ 目標を設定して達成度を評価する手法は有力であり、主流ではあるが、反省もある。例えば、会社の売り上げ目標を達成したとしても、景気が上向いて、他社がより高いレベルを達成した場合、喜んでもらえない。評価の表現は基本を変えなくても、コメントを付けたり、柔軟性を持たせては。
- ・ 目標は多数あるが、例えば天気予報のように国民の関心が特に高いものがある。単純に達成、未達成の目標を数えるのではなく、テーマ毎のウエイトを考慮した総合評価方法に変えていくことも考えては。

(気象庁)

- ・ 今回については、特段の周辺環境の変化はなく、改善に向けて取り組むべき技術開発課題もまだあることから、目標は変更しないつもり。ただし、推計震度については個別の地点の推計精度を上げることを業務目標としたが、大きく揺れたであろう重点地区の分布をいち早く図情報として提供し、緊急対応に活用いただくことが肝心。そこで、評価のやり方も含め、利用面に沿った見直しが必要であることを評価案に書き添えた。
- ・ テーマ毎のウエイトに差はあると思いますが、価値判断の差異、職員の意欲などを勘案すると、明示できるかどうか、非常に難しいことと受け止めています。

(委員)

- ・ 「大いに進展」したものがいくつかある。評価案は、今回はたまたまかも知れず、数年間様子を見るとあるが、どう考える。
- ・ 目標値を高めにも再設定できると受けはいいだろうが、あえて行う程のものでもない。推計震度の見直しは理由が明確であり、安易な変更には当たらない。
- ・ 地球温暖化の影響か、中国の砂漠化のためか、季節の進行が従来と変わっており、天気予報を技術的に難しくしていないか。このような気象の状況変化についての分析も予報に付してほしい。

(気象庁)

- ・ 気候の変化については、日々の天気予報は直近の観測を使う中である程度影響を織り込んでいます。しかし、1か月より長い予報になると、ご指摘のような様々なプロセスを盛り込まないと現実の推移を表現できず、各国とも真剣に分析と改善に取り組んでいるところです。

(委員)

- ・ 評価のコメントを充実するためにも目標について再確認をしては。当初はアウトプットの指数しかなかった項目でも、データが充実して、より目指すところを表現できる指標を設定できることもある。

- ・ 目標と手段が混在しているが、成果の評価と施設整備等の評価は表現を使い分けられないか。
- ・ 地方ごとに関心事が異なるので、管区气象台単位くらいの評価もあり得るのでは。

(気象庁)

- ・ 業務目標に手段が含まれていることは自覚しているが、各部署に具体的な目標を示している側面もあり、全てを除外するわけにも行かない。来年度に向けて区分等を工夫したい。
- ・ 例えば天気予報も地方ブロックによって成績の差はあるが、技術的にも共通部分が大きく、原則は全国あまねく評価するものと考えている。

(2) 平成 1 6 年度気象業務に関する業務目標 (案)

平成 1 6 年度の業務評価案について新規項目を中心に説明。

(委 員)

- ・ 平成 1 6 年度の業務目標ならば、平成 1 7 年度や 1 8 年度の目標年度に向かい、1 6 年度はどうするかが設定されるべき。数字が年々上がるものもあれば、ある時にぐんと上がるものもある。単年度の目標があれば、数字上は進展なしでも、改善に向けた進展があったと評価することも考えられる。
- ・ 業務目標は大きく 4 つに分類されているが、1 番目は提供情報の精度がどれだけ上がるかというくりで、2 番以下と基本的に性格が異なる。評価の言い回しも、この違いを意識して柔軟に対応しては。国民の立場から言えば、1 番さえ達成できればよい。
- ・ 電子機器が雷に相当やられている。なんらかの予報ができないか。

(3) 地球環境に関連する気象情報の満足度調査結果

(委 員)

- ・ この地球環境に関連する気象情報については、専門家の評判がかなりいいけれども、一般の人はほとんど知らないとか、関心がないとか、かなり遠い感じがする。詳しい情報を、一般の人たちわかりやすく提供する努力が必要。
- ・ ウェブのアンケートをやってみたが、長過ぎて最後の送信ボタンまで行けなかった。

(4) プログラム評価 (政策レビュー) の取組

平成 1 5 年度に取りまとめ中の 2 件の概要を報告。

「火山噴火への対応策 - 有珠山・三宅島の経験から - 」【気象庁、河川局】

「海洋汚染に対する取り組み - 大規模油流出への対応 - 」

【総合政策局、港湾局、海事局、気象庁、海上保安庁】

(5) 平成 1 6 年度気象庁業務評価実施計画 (案)

(6) 気象庁業務評価レポート (平成 1 6 年度版) のスケルトン案

(7) その他

(委 員)

- ・ 先ほども雷の話が出たが、同感である。今回の資料に雷の記述が見当たらないが、災害なり、天気予報の項目に入れてほしい。
- ・ 雷もなだれも人命にかかわるが、注意報はあって警報がないのはなぜか。

(気象庁)

- ・ ひとつは予測精度の問題、さらに具体的にどこで発生しているかの把握も困難であった。ただし、昨今は新しい技術が開発されつつある。評価に含めるかは検討させていただきたい。